

第 1 章

介護支援専門員の行う
ケアマネジメントの質の向上

第1章 介護支援専門員の行うケアマネジメントの質の向上

1 介護支援専門員の行うケアマネジメントの質を向上させる意義

ケアマネジメントの質を向上させる意義は、介護保険制度が目指す「自立支援」の理念を実現することに尽きる。

すなわち、介護保険制度は、高齢者が要介護状態等になっても、尊厳を保持して、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることを目的としているのであり、そのための制度運用の仕組みとしてケアマネジメントを導入した。

そして、ケアマネジメントとは高齢者が自立した日常生活を営むという目的のために、高齢者の現状や自立した日常生活に向けての希望を十分に把握し、それを踏まえてその人にとって最もふさわしいサービスが利用できるよう支援する仕組みである。

介護支援専門員は、要介護者又は要支援者（以下「要介護者等」という。）からの相談に対応し、要介護者等がその心身の状況等に応じた適切なサービスを利用できるようサービス利用を行う者等との連絡調整等を行う者であって、要介護者等が自立した日常生活を営むのに必要な援助に関する専門的知識及び技術を有するものである。つまり、ケアマネジメントを動かす介護支援専門員の働き方によって要介護者等の生活は大きな影響を受けるのである。

したがって、介護支援専門員の行うケアマネジメントの質の向上は、高齢者が自立した日常生活を営むという目的を達成するために常に求められていることである。

2 介護支援専門員の行うケアマネジメントの質を向上させる手法

介護支援専門員の行うケアマネジメントの質を向上させる手法はいくつか考えられるが、まずケアプランが適切に作成されているかを確認することが大切である。その理由はケアプランは介護保険制度の目的である利用者の自立支援のために各種サービス・サポートを導入する根拠となるものだからである。ケアプランは「ケアマネジメントの中核」であるといえる。

そこで本ガイドラインでは、ケアプランに着目した①「自己点検」、②「ケアプラン点検」、③「多職種との連携・協働」の手法によるケアマネジメントの質の向上について記載した。ただし、「自己点検」は、「ケアプラン点検」と「多職種との連携・協働」とを一緒に行う内容となっている。

なお、ケアマネジメントの質の向上は「自己点検」「ケアプラン点検」「多職種との連携・協働」のみで達成されるものではない。介護支援専門員が日々の業務における内省や研修への参加等により、自己研鑽を積みながら身に付けていくものである。